

子宮頸癌 予防ワクチン登場！

周産期小児センター長 矢崎千秋

子宮頸癌の原因がヒトパピローマウイルス(HPV)感染であることが発見されて、2008年に発見者の Zurhausen にノーベル医学生理学賞が授与され、まだどれほどの時間がたったのでしょうか？もう、その感染予防ワクチンが開発されて臨床応用されるようになってしまいました。今から30年以上も前、たぶん頸癌はウイルス感染が原因だろうと考えられていましたが、これほど広く感染者がいるとは想像もつきませんでした。

HPV感染は原則的には感染者との性交渉により感染するSTI(Sexually Transmitted Infection)です。コンドームの使用は、感染予防にある程度有効と考えられていますが100%ではありません。わが国における感染率は30才以下で10~25%(高危険群の感染は数%)といわれています。性交経験後は急速に増加します。多くの場合2年程度でウイルスは消えてしまいますが、持続感染も見られます。現在、子宮癌検診は20才から勧められていますが、子宮頸癌に限れば性交渉がない人はまず心配ないといわれていますから、検診によるメリットは少ないといえます。しかし卵巣嚢腫などの異常は性交渉と関係なく若年者にも多く認められますから、そういう疾患の早期発見という意味では婦人科検診の意義はあります。性交開始後は数年以内には子宮癌検診を受けることをお勧めします。

HPV感染予防ワクチン接種に当たっては以下の点に注意が必要です。基本的に熱のある人、急性疾患にかかっていることが明らかな人、妊婦、1ヶ月以内に手術を予定している人、他のワクチンを最近接種した人(生ワクチンは1ヶ月以内、不活化ワクチンは1週以内)は注射できません。またワクチンは3回打つことになっていますが初回注射時に異常があった人も受けられません。年齢制限などはありませんが、HPV感染前に打つことに最も意義があります。高齢になるほど対費用効果が薄れます。1回16,000円前後です。

富岡市と甘楽町では昨年10月より公費負担の接種が始まりました。富岡市の今年度の対象者は中学2.3年生、高11年生。来年度は中学1.2年生。

平成24年度以降は中学1年生の予定です。甘楽町の今年度の対象者は中学2.3年生。来年度は中学1.2年生。平成24年度は小学6年生・中学1年生。平成25年度以降は小学6年生の予定です。(すべて女子生徒が対象です。)



ワクチン接種により20年以上HPV感染予防効果が期待されており、頸癌に関してはかなりの予防効果が見込まれていますが、あくまで婦人科検診がおろそかにならないことを祈ります。超音波検査などで早期発見が見込まれる体癌や卵巣癌なども残っていますから